



JOCジュニアオリンピックカップ 全国中学生陸上競技大会2020 仁多中学校 藤原 琉成選手が出場

10月16日から18日にかけて神奈川県で開催されたJOCジュニアオリンピックカップ全国中学生陸上競技大会2020に出場した藤原琉成選手(仁多中3年)の激励式が、10月9日に役場仁多庁舎で行われました。藤原選手は、9月5日に松江市で開催された第2回島根陸協記録会の男子200mで、22秒28のタイムを出し、出場資格を得ました。藤原選手は、「無観客の大会で残念ですが、悔いの残らないレースをしたいです。」と意気込みを語られました。

(藤原選手の結果)

予選を22秒55で突破し、決勝に出場されました。決勝では、22秒74で第8位という結果でした。藤原選手、お疲れ様でした。

横田中学校吹奏楽部 2020(第26回)日本管楽合奏コンテスト全国大会 激励式

10月28日、役場横田庁舎において日本音楽教育文化振興会が主催する第26回日本管楽合奏コンテスト全国大会「中学校A部門」に出場する横田中学校吹奏楽部の激励式が行われ、吹奏楽部長や顧問の先生ら関係者6名が参加しました。

9月末に学校名を伏せた音源審査による予選審査会が行われ、奥出雲町町歌を作曲した西村朗氏の楽曲「秘儀IV「行進」」を演奏し、審査員の心をつかむ演奏であったと高評価を得て、全国大会への出場が決まりました。

全国大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、事前に撮った演奏動画により審査が行われるため、同校吹奏楽部は10月25日に撮影を行いました。

廣原部長は、「全日本吹奏楽コンクールが中止となり、中国大会出場を目指していた私たちは、悔しい思いをしました。しかし、気持ちを切り替え、新しい目標に向かったことが良かった。全国大会に向け、心のこもった演奏ができた。」と力強く話されました。

全国大会の演奏動画は、11月14日に同振興会のサイトで有料配信され、16日に結果が発表されます。



廣原瑞心部長(左)と顧問の布野ありさ先生(右)
「中学校A部門」は16人以上35人以下で演奏する部門



講演会の様子



小林徳一郎翁頌徳碑

地域の資源に目を向け、その価値を発信することで、地域住民の誇りと自信を高めていくことを目的に稲田自治会内に「稲田発神話の里交流事業専門委員会」が設置され、これまでフィールドワークなどの様々な活動が続けられています。

今年度は、稲田神社の寄進者である小林徳一郎翁生誕150年記念事業として、稲田神社公園の再生活動、リーフレットの発刊、記念講演会が行われます。

10月4日、24日には、延べ50名以上が参加し、公園の草刈りが行われました。これにより荒廃していた第82代出雲国造千家尊統の揮毫による小林徳一郎翁頌徳碑への進入路などが綺麗に整備されました。

また、10月24日には、稲田神社拝殿で福岡県立大学人間社会学部岡本雅享教授による「稲田神社を寄進した小林徳一郎」と題した講演会が行われました。当日は、大社町、日御碕、邑南町など小林徳一郎翁ゆかりの地からの参加もあり、45名の皆さんが翁の生涯や人となりについて話を聞きました。参加者からは「小林徳一郎さんの生き方が凄いです。寄附するなど、お金の使い方が今の時代では考えられない」と感嘆の声が聞かれました。



体験の様子



八川小学校の児童の皆さん

まらり☆輝く地域づくり事業

たたら炭技術伝承

かつて盛んに行われていた「たたら製鉄」に欠かせない材料は「砂鉄」と「たたら炭」です。その「たたら炭」づくりの技術伝承を目的に、10月20日、八川小学校の児童は、竹崎地内でのこの会が主催する炭焼き用木材の木割り、窯入れ、炭窯からの炭出し、炭切り体験をしました。この活動を通して、より「たたら製鉄」に興味を持ち、作業工程を理解することができ、とてもいい体験になりました。

丸山島根県知事が トロッコ列車「奥出雲おろち号」に乗車されました

10月22日、丸山島根県知事がトロッコ列車「奥出雲おろち号」に乗車され、木次線の利用拡大に向けた取り組みについて、関係自治体と意見交換をされました。

沿線の各駅では、幼児園児や地域住民の温かい出迎えを受けられました。丸山知事は、三井野原駅で下車し、鉄の彫刻美術館において今年の新そばを昼食に食べられ、その後、町の担当者から世界農業遺産への取り組みについて説明を受けられました。

今後は、生活交通の利便性の確保と観光客の増加について沿線自治体と一緒に取り組んでいくことを約束されました。



三井野原駅で丸山知事を出迎える地域住民

第1回屋内型子どもの遊び場イベントを開催しました



屋内型遊具で遊ぶ子どもたち

10月11日、第1回屋内型子どもの遊び場イベントを鳥上幼稚園(休園中)で開催し、午前の部に12組、午後の部に8組の親子が参加されました。このイベントは、雨天や降雪時でも子どもと一緒に遊べる屋内型の遊び場を提供することで、親子の触れ合いにより、子どもの健やかな成長を促すことを目的としています。参加した子どもたちは、段ボール迷路、楽器、ハンモック等の屋内型遊具で自宅ではできない遊びを思いっきり楽しみました。参加した保護者は、「家では思いっきり体を動かすことができないので、雨天時に走り回ったりできる場所があるのは助かる」と話されました。今年度は、4回のイベント形式で、11月、1月、3月に開催する予定です。



みんなと一緒に
お絵描きを楽しむ様子

秋の叙勲 おめでとうございます

旭日中綬章



元日本自動車販売協会連合会会長
櫻井 誠己さん(上阿井)

日本自動車販売協会連合会の役員として、約10年間、日本の自動車業界の振興に尽力されました。日本は、海外と比較すると自動車に関連する税金が複雑で高いため、税金の軽減と簡素化を国や国会議員に要望し、消費税増税時に自動車取得税の廃止が実現しました。

旭日単光章



前奥出雲町農業委員会会長
藤原 一利さん(大馬木)

平成11年に横田町農業委員会委員に初当選以来、7期21年の永きに亘り、奥出雲町農業委員会会長や島根県農業会議副会長などを歴任し、耕作放棄地の再生など、奥出雲町はもとより、島根県の農業の振興に大きく貢献されました。

瑞宝単光章



元奥出雲町消防団副団長
石原 博さん(大谷)

昭和48年に横田町消防団に入団以来、約36年に亘り、八川分団分団長や奥出雲町消防団副団長を歴任し、この間、旧仁多・横田町消防団の統合に尽力するなど、地域における消防の発展に貢献されました。

「たたら製鉄が生んだ奥出雲の資源循環型農業」 世界農業遺産を目指して一歩前進!

奥出雲町農業遺産推進協議会は、世界農業遺産への認定申請を目指して、7月22日に「世界農業遺産への認定申請に係る承認申請書」を農林水産省へ提出しました。そして、9月18日に書類審査による1次審査を通過しました。

今後は、12月1日に、世界農業遺産等専門家会議委員による現地調査が行われ、令和3年1月下旬には、東京で2次審査のプレゼンテーションを行う予定です。来年2月頃には、世界農業遺産認定申請の承認地域が発表されます。

また、同協議会は、奥出雲町産農産品のPR、日本農業遺産の認定や循環型農業について情報発信することを目的にロゴマークを入れたシールとのぼり旗を作製しました。

10月下旬から11月の紅葉と新そばシーズンには、多くの観光客が訪れる道の駅や産直施設にのぼり旗を設置して、奥出雲の食の恵みをPRしました。

※ロゴマークの利用については、町ホームページをご覧ください。



たたら製鉄由来の資源循環型農業
日本農業遺産・奥出雲町



三成駅周辺に設置された
のぼり旗

